

城崎温泉
文学と演劇と

高橋源一郎

平田オリザ

青年団

K I A C

盛衰史
日本文学

文学って、演劇って、なんですか？

城崎文芸館 第三回企画展 Kinokaki literature museum
the third exhibition

2018.5.19 sat. — 2019.3.31 sun.

KINOSAKI LITERATURE MUSEUM 357-1 YUSHIMA KINOSAKI-CHO, TOYOOKA-SHI HYOGO-PREF, 669-6101 TEL:0796-32-2575 URL:kinobun.jp



城崎文芸館 第三回企画展

文学と演劇と 城崎温泉

2018.5.19 sat. — 2019.3.31 sun.

2018年、城崎国際アートセンターにて
滞在制作される「青年団」の舞台『日本文学盛衰史』。

明治時代、近代文学の創始者たちが

「いつたい、何を、どう書けばよいのだ？」

と苦悩する姿を100年後の日本へ甦らせた

高橋源一郎氏による奇想天外な物語。

この小説を「青年団」主宰の平田オリザ氏が

どのように演劇へと舞台化・立体化させていくのかを、

城崎文芸館らしくご紹介しようという試みです。

『日本文学盛衰史』を通して

文学とは何か、演劇とは何か？

そして、演劇とはどうできあがっていくのか？を

やわらかく伝えます。



城崎国際アートセンター

通称 KIAC (キアック)。城崎温泉の温泉街に、2014年に開館した舞台芸術を中心とした滞在型の創作施設、いわゆるアーティスト・イン・レジデンスの拠点。年に1回の公募によって選ばれたアーティストやカンパニーが滞在し、年間を通してアーティスト・イン・レジデンスのプログラムを実施。また、アートを通じてこれまでと少し違った世界のみかたを発見できる環境づくりを目指し、ワークショップや試演会、アーティスト・トークなどをコーディネートしている。芸術監督は平田オリザ氏。



高橋 源一郎

(たかはし げんいちろう)
写真: TONY TANIUCHI

1951年広島県生まれ。小説家、文学者、文芸評論家。明治学院大学教授。1981年デビュー作、『さようなら、ギャングたち』で第4回群像新人長編小説賞優秀作受賞。1988年『優雅で感傷的な日本野球』で第1回三島由紀夫賞受賞。2002年『日本文学盛衰史』で第13回伊藤整文学賞受賞。2012年『さよならクリストファー・ロビン』により第48回谷崎潤一郎賞を受賞。著書に『「悪」と戦う』、『恋する原発』、『ぼくらの民主主義なんだぜ』他多数。



平田 オリザ

(ひらた おりざ)
©T.Aoki

1962年東京都生まれ。劇作家、演出家。劇団「青年団」主宰。こまばアゴラ劇場芸術総監督、城崎国際アートセンター芸術監督。大阪大学COデザインセンター特任教授、東京芸術大学COI研究推進機構特任教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐。1995年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞受賞。2002年『上野動物園再々々襲撃』(脚本・構成・演出)で第9回読売演劇大賞優秀作品賞受賞の他、様々な賞を受賞。本人作の戯曲はフランスを中心に世界各国語に翻訳・出版されている。

1 高橋さん! オリザさん! 文学って、演劇ってなんですか!?

小説とは何か、演劇とは何かをそれぞれの作り手に質問します。文学がどのように演劇へと立体化するのか。「日本文学盛衰史」を通してみましょう。

2 オリザさん、 私に演出をしてください!

大きな鏡の前で、「オリザさんからのお題」を演技で表現してみましょう。鏡を通して、今まで知らなかった表情の自分と出会えるかもしれません。

3 平田オリザ&青年団、 これまでの歩み

2018年は「青年団」が誕生して35周年の節目の年。これまでの公演とともに、旗揚げから現在までの歴史をふり返ります。貴重な台本などの展示も。

4 オリザさん、ようこそ豊岡市へ

豊岡市では既に学校での演劇の授業や講演でおなじみの平田オリザ氏を、関わりの深い人たちが紹介します。そして平田氏に密着した映画「演劇1」も特別上映。

5 DESKTOP THEATER —「小説」から「演劇」へ—

「青年団」も過去に舞台化した文学作品『銀河鉄道の夜』。本展ではライゾマティクスとCALFによる映像インスタレーションにより、文学の世界を立体化します。

Information

青年団 第79回公演『日本文学盛衰史』

原作：高橋源一郎 作・演出：平田オリザ
日時：2018年6月7日 - 7月9日 32ステージ
会場：吉祥寺シアター 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-33-22
チケット：青年団 TEL03-3469-9107 (12:00-20:00)、演劇最強論-ing
ローソンチケット、e+、武蔵野事業団で販売

文学とは何か、人はなぜ文学を欲するのか、人には内面というものがあるらしい。そして、それは言葉によって表現ができるものらしい。しかし、私たちは、まだ、その言葉を持っていない。この舞台は、そのことに気がついてしまった明治の若者たちの蒼い恍惚と苦悩を描く青春群像劇である。高橋源一郎氏の小説『日本文学盛衰史』原作、青年団2年ぶりの新作公演。

青年団

『日本文学盛衰史』公開リハーサル

日時：2018年6月2日 14:00~
会場：城崎国際アートセンター ホール
申込み：城崎国際アートセンターへ電話またはメール
(※事前申込必須・観覧無料)
TEL 0796-32-3888 (9~17時/火曜休館)
e-mail info@kiac.jp

東京公演に先駆けて、通し稽古を一般公開。終演後は平田オリザ氏によるポストパフォーマンストークを開催。

開館時間：午前9時~午後5時

休館日：毎週水曜日(ただし8月・11月~3月は最終水曜日のみ、いずれも祝日の場合は翌日)、年末年始
※休館日は変更になる場合がございます。展示替えのための臨時休館がございます。

観覧料：大人500円、中高生300円、小学生以下 無料

所在地：〒669-6101 兵庫県豊岡市城崎町湯島357-1 TEL 0796-32-2575

第3回企画展 協力：青年団、城崎国際アートセンター(豊岡市)、有限会社BACH

Toyooka
Art
Season
2018

参加事業



城崎文芸館

kinobun.jp